



イギリスでの11年

照明経験もほぼゼロの状態でしたが、「照明を勉強したい」という思いでイギリスに来て、気づくとあつという間に11年が経っていました。私は一体この11年でどれだけ成長できたのでしょうか。20～40年間現役で働いていらっしやる照明家さんたちには、無論、手も足も及びませんが、技術的な面は10年前に比べたら、カンと応用が少しは効くようになってきたかなとは思っています。でも人間的に成長できたかと、自分に問かける今日この頃です。照明はアートと違って、1人では語れない。アート作品を作っていた頃は、自己満足の世界でしかなかったけれど、誰かと協力して、話をうまく伝えたい、この空間を特別なものに、瞬間にしたい。そのような作業は1人ではできません。人と一緒に舞台を創り上げることで、得られる喜びと挫折は、少なからず自分を大きくしてくれたと思います。それが照明でよかったと、本当に思います。

私の人生を、照明に導いてくださった大先生は「人は誰でも、何かを10年やり続ければ、十分に飯が食っていけるようになる。」と、おっしゃっていたのを思い出しました。その時は、「10年かあ、それまでに飢え死にしそうだな…」と思っていましたが、実際に学び、仕事を始めると時間が過ぎるのはあつという間でした。試練もあるけど、楽しみもたくさんあって、がむしゃらになんでもやれたからではないでしょうか。ふと振り返ってみると、自分はいろんな人の周りでお仕事をさせ

ていただき、そうやって仕事を覚えてきたのは、とてもよい経験だったなと思います。あの素晴らしい照明家のお弟子になっていたら、今頃どうなっていたのだろうとも、考えたりします。でも、1人の人に付くと、他のやり方が見えないという弱点もあります。ですから、今までやってきたスタイルで後悔をしていません。

この11年間、照明の仕事に関わってきて、一番仕事で重要だなと思えるようになってきたことは何か。人間性です。技術やセンスも勿論大事なのですが、周りが見える余裕といいますか、一緒に働いている人をうまく巻き込む人間性です。そういう才能をもともと持ち合わせている人もいますが、チームワーク、信頼関係、コミュニケーションが自然にできるようになるには、やはり自分に自信と余裕がないとできないことです。そのようなものは必要ないと言われる方もいらっしやるかも知れませんが、演出家、他のクリエイティブチームとコミュニケーションが取れなかったり、美感をチームとシェア／議論できないと、照明家としては致命的だと私は思います。議論ができるのも信頼関係があつてこそだと思います。クリエイティブチームとのチームワークだけではありません。照明家と照明チーフとのチームワークでもあります。

そこでふと思ったのは、イギリス人照明家と日本人照明家の違い。まずは位がかなり違うように見えます。日本は照明家と照明チーフの上下関係がくっきりしているように見えますが、イギリスはもっとフラットな関係です。勿論、イギリスでも照明家の方が、位は上ですが、互いのコミュニケーションの取り方がイギリスの場合ももっとフラット／率直なのです。それ故、上下関係があつても、コミュニケーションが互いに取りやすく、問題解決が早く済むこともあります。そういう面では、ヨーロッパのほとんどがそうなのかもしれません。日本は上下関係を重視し、上をリスペクトする。そのリスペクトが本物であっても、外見だけであっても、上をリスペクトすることは常識的です。かといって、イギリス人は上の人をリスペクトしないわけではありません。彼らは、「上だからリスペクトしなくては」という強制思考よりも、「人としてリスペクト」し合えて初めて、上下関係でも率直に、フラットに話せるのだなと思いました。

今後も、自分が日本人であるということを忘れずに、大切に、イギリス人の良いところを見習いながら、ここイギリスで照明の仕事が続けたいと願っています。



ロンドン古トレイン



湖水地方